

# はじめに

平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金の採択通知を 3 月 31 日に受け平成 28 年度大浦研究班が発足した。

厚生労働省指定研究は政府の骨太政策に従い、実現するための提案と骨太政策を普及・啓発をするのが目的であり、応募研究とは異なる。従って研究は非常に限られた期間に行い、成果を上げなければならなかった。

例えば今回は 4 月 14 日に平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金研究計画書を提出し、10 月 27 日に厚生労働省より科学研究費補助金交付基準額の正式な通知があった。11 月 16 日に平成 28 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金交付申請書を再提出し、それが認められて 3 月 31 日厚生労働省指定研究班が発足するのである。

以上のように研究時間は短いので、提案事項に対するエビデンスづくりとなる。

## 平成 28 年度の研究課題

家庭医、保健師、看護師などに頒布し足病の正しい理解と早期発見・発見・早期治療を普及・促進させるため「医療従事者のための足病治療・ケア」の小冊子（免荷を考え外来で治療出来る下肢潰瘍治療）を出版し、下肢・足病の重症化予防に努め知識と技術を普及・啓発する。

日本透析医学会の全数調査データのうち、連結した透析患者について多変量解析を行い、四肢切断に至る要因の詳細を菊地 勘、田中純子委員が中心となり検出する。

平成 27 年度大浦研究班で提案した下肢切断回避と下肢・足病の重症化予防が形を整え、平成 28 年度診療報酬改定で下肢末梢動脈疾患指導管理加算 100 点が保険収載された。これの成果について調査する。調査はアンケート形式とし、透析学会にお願いする。また大浦研究班独自に関東における調査とそれと合わせて九州、北海道における透析施設にもお願いする。

リハビリテーションの PT・OT との連携は非常に重要で、早期歩行獲得には PT・OT との協力なくしてはありえない。リハビリテーションの早期介入により、歩行獲得が早く得られるかどうかの遡及的研究を行う。これは平成 29 年度に行う予定の RCT の前向的研究の前段階として行う。下肢の温存は重要で、下肢・足が温存され筋力も維持されていれば心臓リハビリや脳疾患後遺症のリハビリが可能となり、引いては健康寿命につながり成果は大きい。

日本の腎移植の数が少ないのは透析患者にとって辛い思いである。幸いにして日本の透析技術は世界に冠たるものがあり、30年や40年生き続けることが出来ている。ここで患者のQOLや足病の方から腎移植を見直す必要があると考える。

そこで、献腎移植患者の足・下肢病の状態、重症化状態への進行と、患者腎機能、ADLなどについて調査する。背景因子を均等化して、慢性透析患者のそれとを比較検討する。谷口雅彦分担研究者を中心に比較検討する。